



雪の中を永平寺へ上る雲水

# 乗雲

寺報 第64号

H17.3.1 発行

広蔵寺

〒959-2646 新潟県

北蒲原郡中条町

西栄町 2-8

TEL0254-43-2419

FAX0254-43-4560

振替

00650-4-5381

住職 神田英俊

Eメールアドレス

tera@kogonji.jp

♪

山なみ深き吉祥山 雪深々と降り続く  
 七堂伽藍音も無し 道元禅師居ます寺  
 鐘鳴り響くこの精舎 道を求むる若人に  
 修行厳しと言うなかれ 峯雪融けて梅匂う  
 その名尊き永平寺  
 その名尊き永平寺

この歌は「永平寺讃歌」と言い、駒澤学園女子高等学校の生徒達百名ほどが毎年研修に訪れ、永平寺に一泊し早朝の勤行に披露してくれるものです。修行中の雲水にとつては心に染み入り涙が溢れてくる瞬間です。

永平寺の雲水は道元禅師の時代から七百六十年余を経た現在でも変わらぬ修行を続けています。衣食住の三如法と言いますが、着る物、食べる物、住む所はもちろん、坐禅、読経、提唱、作務、みな示された教え、規範のとおり日常生活を黙々と続けております。現在の禅師さまは永平寺七十八世になられる宮崎奕保禅師で、明治三十四年生まれ今年百五歳。昨年NHKスペシャル「永平寺百四歳の禅師」にて全国放映されました。「教えは実行を生み出すためにある」と説き、二百五十名からなる雲水の先頭に立って、御開山道元禅師の教えを実行している方です。

このたび当寺弟子も修学を終え、ご本山のお世話になるとに手続きをいたしました。手甲、脚絆、草鞋履き、網代笠をかぶって雲水修行の旅に出ます。「道を求むる若人に修行厳しと言うなかれ」三十余年前のあの日を思い出します。最初は慣れない生活で苦勞は仕方ありませんが、一生の中で最も大切な事にしなければならぬ期間です。求道者としてしっかりと歩を進めてもらいたいと願っています。